

科目名	刑事訴訟法	科目分類	■専門科目群 □総合科目群	
			法律学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Criminal Procedure	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年	
		開講期間	□前期 □後期 ■通年 □集中	
ふりがな	おかざき しょうへい	実務家教員担当科目	修得単位	4単位
担当者名	岡崎 頌平	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用	
授業のテーマ	刑事手続に関する基礎知識の修得			
到達目標	受講者は、本講義を履修することで、刑事手続きの流れ、その中で生じている諸問題について理解できるようになります。			
授業概要	本講義は、警察官志望の学生の受講を想定して、捜査及び証拠について先に扱い、公訴・公判については後半で取り扱います。			
授業計画				
第1回	イントロダクション 序論① 現行刑事手続の構造	第17回	証拠② 科学的証拠	
第2回	序論② 手続関与者	第17回	証拠③ 自白の証拠能力	
第3回	捜査① 任意捜査と強制捜査	第18回	証拠④ 補強法則	
第4回	捜査② 職務質問	第19回	証拠⑤ 伝聞証拠の意義	
第5回	捜査③ 被疑者の取調べ	第20回	証拠⑥ 伝聞例外	
第6回	捜査④ 逮捕・勾留	第21回	証拠⑦ 違法収集証拠	
第7回	捜査⑤ 令状による捜索・差押	第22回	公訴① 公訴権の運用と規制	
第8回	捜査⑥ 令状によらない捜索・差押	第23回	公訴② 公訴提起の要件と手続	
第9回	捜査⑦ 体液の採取	第24回	公訴③ 訴因の明示・特定	
第10回	捜査⑧ GPS 捜査	第25回	公訴④ 訴因・罰条の変更① (要否)	
第11回	捜査⑨ 秘密録音・おとり捜査	第26回	公訴⑤ 訴因・罰条の変更② (可否)	
第12回	捜査⑩ 接見交通	第27回	公訴⑥ 訴因・罰条の変更③ (許否、その他)	
第13回	捜査⑪ 起訴後の捜査・準抗告	第28回	公判	
第14回	証拠① 同種前科・類似事実による立証	第29回	裁判	
第15回	前期のまとめ	第30回	全体のまとめ	
第16回	中間(前期定期)試験	第31回	後期定期試験	
授業時間外の学習	各回の授業で扱う内容について教科書の該当箇所をあらかじめ読むこと。(予習：120分) 扱った内容についてレジュメ等を使って振り返ること。(復習：120分) ※レジュメはポータルサイトを通じて配布するので、確認すること。			
履修条件 受講のルール	法律事例研究Ⅰ・Ⅱ、刑法総論、刑法各論の単位を修得済みであることが望ましい。 ポータルサイトを通じて事前配布されるレジュメを取得して(授業中に配布しない)、授業中に見ること (レジュメについては必ずしも紙である必要はなく、デジタルデータでも構わない。デジタルデータの場合には、ノートパソコンやタブレットを持参の方が都合がよいと思われる。) 最新の六法を持参すること。			
テキスト	①池田公博ほか『刑事訴訟法』有斐閣(2022年) ②中島宏ほか『刑事訴訟法』日本評論社(2022年) ③刑事訴訟法判例百選〔第10版〕有斐閣(2017年) ①及び②は予復習用の教科書として指定するので、自分に合う方を購入すること。 ③は授業中に使用する判例集として指定するので購入すること。			

参考文献・資料	宇藤崇ほか『刑事訴訟法〔第2版〕』有斐閣(2018年)、酒巻匡『刑事訴訟法〔第2版〕』有斐閣(2020年)
成績評価の方法	試験100%（中間試験40%、定期試験60%） ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	金曜3・4限
成績評価の基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	予習でテキストを読む際は、ぜひ疑問点などをメモして、講義に臨んでください。